

■プロローグ

臨床と研究の架け橋

私自身は臨床医ですが、研究にも大きな比重を置いています。まだ若い医学部の3～4年生の学生さんに「研究に興味がありますか？」というような質問をすると、だいたい三分の一くらいの人が「自分には無関係なものだと思う」「まったく興味がない」「自分は臨床医として頑張りたい」というような答えが返ってきます。ありがとうございます——という感じですね。そういつてもらえると、私も、なぜ臨床医なのに研究するのか？なぜ臨床医にとって研究が大事なのか？という話がしやすくなります。そうした考え方のギャップを埋めることが私に与えられた一つのミッションだと思っております。



結論からいうと、臨床医にとって研究は重要です。少なくとも私はそう思っています。私の主なメッセージは以下の通りです。

- 臨床医の行う研究は、研究のための研究ではあってはならない。
  - 臨床に役立つ——患者さんのためになる研究であるべきだ。
  - 臨床医だからこそ開拓できる研究分野、領域がある。
  - われわれがやらなくて、誰がやる？
  - 究極的には、「最先端の臨床≠研究」である。
- 最先端 (cutting edge) は、cutting edge、cutting edge。

これからなぜそのような話になるのか——を順を追って、私自身の経験も踏まえながら話をしていきたいと思います。これから「臨床医」を目指す若い学生さんにも、頭の片隅に置いておいてもらえれば、将来役に立つ話もあるかもしれません。既に臨床の現場で頑張っている研修医や若手医師にとっても、今後の進路を考えるうえで参考になるのではないかと思えます。そしてベテラン医師や医師以外の人たちにとっても、臨床医にとっての研究とは？と、今一度考えていただくきっかけになれば幸いです。

## 現在の私の医師としての仕事…自己紹介を兼ねて

現在私は東京大学医学部附属病院の呼吸器外科医として働いています。仕事の割合として一番多いのは、やはり肺癌や転移性肺腫瘍など、肺切除術の対象となる患者さんの診療です。一方で、私のこれまでの臨床経験やキャリアという意味では、肺移植は外すことのできないテーマで、現在も東大肺移植プログラムのメンバーの一人として、肺移植患者さんの登録作業や移植後のフォローアップ、たまにある肺移植手術を行っています。

他の重要な仕事としては臨床研究があります。東大で行っているのは主に virtual assisted lung mapping (VALMAP)\* と呼ばれる(名付けた)、手術支援のための気管支鏡下肺マッピング法です。実際には、この方法が臨床で必要なことも多々あるため、臨床と研究は融合しており、どこまでが臨床でどこからが研究ということが難しいところです。また次世代 VALMAP の開発も国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 支援の下、進んでおり、こちらは 2016 年末の段

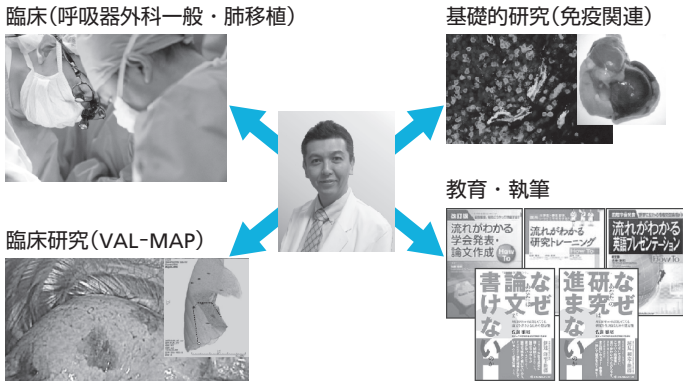


図1 現在の私の活動

階では前臨床研究ですが、早ければ2017年中にも臨床試験に入っていくものと期待しています。

もう一つ、かれこれ10数年続いているのがラボでの研究です。どちらかといえば「基礎的」といえるかもしれませんが、そんなことをいうと本当に基礎医学を研究している人からはお叱りを受けそうなくらい、臨床の方を向いた基礎研究です。具体的にいうと、長年のテーマである肺移植後慢性拒絶(肺移植後慢性移植片機能不全: chronic lung allograft dysfunction II CLAD)の機序の解明と治療につながる研究を行っています。また肺癌に関する免疫に関連した研究も独自の視点で行っています。

最後に執筆活動。本書の執筆がまさにそれにあたりませんが、コツコツ書いています。書きたいこと、書かなければならないと思うことはたくさんありますが、なかなか書く時間がないです。出版社の方からもいろいろ話をいただいて、本当にありがたいことで、これも先行の「流れがわかる」シリーズや、「なぜ」シリーズ（いずれもメディカルレビュー社）が好評だったことによりですが、まだまだ語りつくせていないところがあります。というか、私自身も日々勉強、毎日進化しているので、本の題材もどんどん増えるというわけです。

他にもいろいろなことがあつて多忙を極めますが、基本的には充実した毎日をごすことができます。これは本当にありがたいことです。さて、臨床医として、このように様々な研究活動を行っている私ですが、どのような経緯で現在に至りこのようなことをやっているのかをまず簡単に説明しておきましょう。

\* VALYMAP

2016年12月現在、この方法を使った前向き多施設臨床試験が先進医療として実施されている。2018年4月の診療報酬改訂時に保険収載となり、保険診療として広く一般の